

## 平成 27 年度

### 第 1 回仙台市環境審議会地球温暖化対策専門部会

#### 議事録

平成 27 年 8 月 3 日(月) 13:30~15:35

仙台市役所二階第四委員会室

#### I 次第

- 1 開 会
- 2 委員紹介
- 3 事務局紹介
- 4 議 事
  - (1) 改定方針について
  - (2) 温室効果ガスの削減目標および必要削減量について
  - (3) 施策体系案および重点プロジェクト骨子案について
- 5 その他
- 6 閉 会

#### II 出席委員数

出席 5 名

欠席 2 名 (赤井仁志委員, 奥村誠委員)

#### III 議事・報告事項

司会	「議事」に入る。議事進行については、「仙台市環境審議会の組織及び運営に関する規則」第五条第一項及び第七条第六項に基づき、中静部会長にお願いする。
議長 (中静透部会長)	初めに、会議の公開、議事録署名について確認させていただく。 まず会議の公開については、「個人のプライバシーに関することなどで非公開とする必要がある場合以外は、原則として会議を公開することとしている。 次に、議事録の署名については、仙台市環境審議会の運用にならない、部会長と出席委員 1 名の署名をもって、正式な議事録とすることにした。今回は出席委員のうち 50 音順で伊藤委員にお願いする。 それでは議事に入る。議事 (1) 改定方針について、事務局から説

	明いただく。
事務局（環境企画課長）	資料1に基づき、「改定方針について」を説明
議長（中静部会長）	ただいまの事務局からの説明について、ご意見やご質問はあるか。
工藤治夫委員	改定方針に「杜の都環境プランとの整合を図る」とあるが、杜の都環境プラン策定後に発生した震災を踏まえるという考えでよいか。
事務局（環境企画課長）	そのとおりである。
議長（中静部会長）	次に、議事（2）温室効果ガスの削減目標および必要削減量について説明願う。
事務局（環境企画課長）	資料2及び資料3-1に基づき説明
議長（中静部会長）	ただいまの説明について、ご意見やご質問はあるか。
工藤委員	温室効果ガスの削減目標の設定は、これからの対策の進め方と係わりがあり、今の段階で何パーセントに設定するのが妥当かを判断することは難しいと考える。
工藤委員	あまりに高い目標を掲げた場合、現実的な利害から経済活動への影響を懸念する声が高まり、理解が得られにくくなるのではないか。
事務局（環境企画課長）	この計画が、仙台市の今後の発展を阻害させてはいけないと考えており、企業の経済活動と低炭素化が共に進むよう、対策を講じていければという思いで重点プロジェクト案を作成した。
工藤委員	仙台市の産業構造は製造業の割合が少なく、運輸部門がかなり温室効果ガスを排出している。各業種別に排出を抑えると、どういう経済的な影響が出てくるのか踏まえることが重要だ。 経済が失速する懸念を払拭できるよう、理論武装しながら、国を上回る目標で経済がうまく回るような知恵を出してほしい。
伊藤委員	国の温室効果ガス排出削減目標に対して、パブリックコメントでは、将来の長期的目標と整合をとるために、少なくとも2013年度から、2030年で40%ぐらいの削減が必要という意見が多かったと聞いている。仙台市の産業構造では、かなり厳しいレベルだと感じていた。 資料の30%削減という案は、仙台市がぎりぎり頑張っこのレベルだ、という説明の筋書きを描いてほしい。
吉岡委員	地元の環境関連の事業にうまく結び付くような施策や目標設定が必要だ。 国よりも高い目標を示す必要はあるが、非現実的なものでは絵に描いた餅になるため、何か少し工夫をすれば実績が残せる、そういった

	<p>目標設定が必要だ。また、技術的に浸透してきたものをさらに普及させて、目標設定にどの程度貢献できるのかということを表してもよい。</p> <p>さらに、国では二国間クレジット制度による効果を実績に加えることができるが、地方自治体には反映されない。国よりも高い目標を掲げるのであれば、かなり自治体に負担がかかってくるので、単に国の数字に上乘せするのではなく十分な考慮が必要だ。</p>
若狭委員	<p>BAU 推計について、将来、人口が減っていくのにも関わらず、温室効果ガスの排出量が増加するのはどのような要因によるものか。</p>
事務局（環境企画課長）	<p>人口は減少傾向にあるが、一方で将来の経済成長が予測されることから、この影響により結果的に温室効果ガスの排出量が増えると見ている。</p>
工藤委員	<p>震災後、電力排出係数の上昇による二酸化炭素の排出が増加しているが、これらのデータは、仙台市民の排出実態とは異なる。これを基にいくら議論しても仙台市の具体的な数値目標の策定は難しい。</p> <p>仙台市としてできるのは、産業部門と家庭部門の省エネであり、化石エネルギーへの依存を変えられると非常に良い。これにより二酸化炭素の排出が削減され、経済成長につながっていくという絵が描けると理解が得られやすい。</p>
議長（中静部会長）	<p>目標については、今後削減案を練ったうえで議論していただき、国の目標を上回り、できるだけ仙台市として効率的に温室効果ガスの排出を減らせる目標を目指すということをお願いしたい。</p> <p>続いて議題（3）施策体系案および重点プロジェクト骨子案について、事務局から説明願う。</p>
事務局（環境企画課長）	<p>資料3-2に基づき説明</p>
議長（中静部会長）	<p>ただいまの説明について、ご意見やご質問はあるか。</p>
伊藤委員	<p>施策体系と重点プロジェクトの位置関係がわかりづらい。施策体系の実施項目をここまでブレークダウンしたのであれば、その中で重点プロジェクトがどれかを出した方が理解しやすい。重点プロジェクトとしてまとめるのであれば、施策体系と重点プロジェクトのつながりがはっきりわかるようなまとめ方をすべき。</p>
工藤委員	<p>平成23年1月の中間案は、当時の様々な意見が反映されてつくられており、今回の案は、この中間案に震災後の社会情勢の変化を踏まえて作成されていると捉えて良いのか。</p>
事務局（環境企画課長）	<p>そのとおりである。</p>

工藤委員	<p>重点プロジェクトの各々について、二酸化炭素削減量の算出方法はあるのか。市民のマイカー通勤により、膨大な二酸化炭素が排出される。これを公共交通にシフトする、あるいは軽自動車や電気自動車に変えることによって、これだけ二酸化炭素が減るという指針が示せないか。</p> <p>いくつかサンプリングして、今把握できること、将来把握できることを含めて、そのような指標があると好ましい。</p>
事務局（地球温暖化対策係長）	<p>温室効果ガス総排出量は統計的な手法により推計しており、仙台市における車の走行距離や自動車の台数といったデータを用いて計算している。</p> <p>また、地下鉄が開通した場合に、自家用車からどのくらい乗り換えるか、予測を立てて計算している。</p>
工藤委員	<p>仙台市民に「マイカーがこれだけ減り、これだけ二酸化炭素の排出が減ってきている」というアピールをし、利用者側の意識を変えていく必要がある。</p>
事務局（環境企画課長）	<p>市民が、これをしたからこれくらい二酸化炭素の排出が減るんだと認識し、その次の行動につながるということが重要だと思う。</p> <p>今回の計画の中でも、その辺の意識につながるような示し方を考えたい。</p>
吉岡委員	<p>重点プロジェクトの設定の視点は、仙台らしい部分がある程度出ていると感じた。</p> <p>わかりにくいのが、低炭素という言葉の使い方と省エネという言葉の使い方。本文に3Eとして、「創エネ」「蓄エネ」「省エネ」という三つを打ち出しているが、重点プロジェクトのタイトルだけは「省エネ」という言葉になっており、ほかの部分が省エネに含まれているのか、低炭素に含まれているのかが見えない。省エネは従来からある話なので、むしろ創エネ、蓄エネを前面に出してもいいと感じた。打ち出している以上は、並列で考えた方が良い。</p> <p>重点項目3は、非常に「検討する」という項目が多い。具体的に「仕組みをつくる」などと積極的に書き込んでどうかと感じた。</p> <p>また、重点項目4は、教育という言葉が出ているが、誰が誰を教育するのか非常に曖昧である。対象に一般市民を意識していると思うが、子供への教育という視点があるのかどうか。</p> <p>最後に、確認だが、国は積み上げで温室効果ガス排出削減目標を出しているが、市ではこれをどれくらい拾い上げているか。また、国の積み上げ以外に、仙台市の独自の項目があるのか教えてほしい。</p>

事務局（地球温暖化対策係長）	<p>教育の対象について、市民に広くというのはあるが、重点的には未来を担う子供たち、幼稚園から小中学校までを考えている。</p> <p>また、積み上げについての国と市独自分との切り分けについては、例えば国民運動の推進は重点項目4に相当すると考える。だが、国だけで進むものではなく、自治体も重点的な啓発を行うことで国の目標が達成され、さらにもう一步進むことができる。そのように重なる部分もある。また、地下鉄東西線を契機とした乗り換えは、他とは異なる状況のため、独自項目として特に大事に積み上げられるようにしたい。</p>
工藤委員	<p>震災後、ごみの分別が守られなくなっている。仙台に引っ越してきた被災者等は仙台市のごみの分別方式をよく理解していないが、小学校において児童を対象にした環境教育に取り組むことで保護者への啓蒙が図れるのではないか。</p>
若狭委員	<p>環境教育については、アメニティ推進協議会やFEEL-Sendai等とともに児童館等で活動に取り組んでいるが、小学校はなかなか受け入れてくれない。</p> <p>最近の活動ではレジ袋の削減が課題になっており、大学やスーパーでレジ袋削減への協力をアピールしているが、どこまで市民が協力してくれるかが課題になっている。ごみ、環境に関して、どうしたら興味を持ってもらえるかを考え、活動に取り組んでいる。</p>
工藤委員	<p>連合町内会長の話では、一番の悩みはごみ集積所だとのことだ。環境に対する意識の強い人たちは献身的に取り組んでいるが、80%の人は、できればやりたくないと考えていると思う。小学校と連携して環境教育に取り組むことが必要であり、行政の中で連携して対応してほしい。</p>
議長（中静部会長）	<p>適応については施策内容があまり書いてない部分があるが、国の適応策の中から、仙台市ができるものを早急に調べ上げて、いくつかモデル的に提示してもよい。</p>
吉岡委員	<p>適応策についても、仙台市オリジナルの部分が見えるようお願いしたい。</p>
工藤委員	<p>モデルで良いので、施策の効果を数値的に測れる方法を工夫し、市民に実感してもらえると良い。</p>
議長（中静部会長）	<p>計画書制度は、事業者にとっては非常に関心がある一方、導入が難しい点もあるのではないかと考えるが、工藤委員はいかがか。</p>
工藤委員	<p>事業者が温室効果ガスの排出削減に一所懸命取り組んだら、補助金や発注が増えるなどの施策があれば、真面目に取り組まれると考える。</p>

議長（中静部会長）	<p>仙台市はずっと環境都市として取り組んできたので、他都市よりも先を行く施策が期待されている。是非そのような気持ちを持って進めてほしい。</p> <p>本日の議論はここまでとする。事務局から、連絡事項などはあるか。</p>
事務局（環境企画課長）	<p>第2回環境審議会を9月8日午後3時から開催する予定である。</p> <p>また、次回の専門部会は10月19日午前10時から開催する予定である。改めて連絡するので、よろしく願いしたい。</p>
議長（中静部会長）	<p>以上で本日の専門部会の議事を終了する。活発な議論をいただき感謝する。</p>

この議事録について、会議の内容と相違がないことを認める。

平成27年10月19日

仙台市環境審議会地球温暖化対策専門部会

部会長 中静 透

部会員 伊藤卓雄